CASBEE広島における重点項目の環境配慮設計概要

CASBEE-広島 （2010年ver.1）

広島駅南ロCブロック第一種市街地再開発事業 新築工事

※下表の空欄に環境配慮設計の概要をコメントしてください。

配　慮　項　目	評価点	重み係数	内　訳							
■1.「地球温暖化対策」の推進										
1.1　建物の熱負荷抑制										
（コメント）　※配慮事項を簡潔に記載してください 住宅部分は省エネルギー等級4を満足し、建物の熱負荷抑制に配慮している。	2.0	0.07	Q1	室内環境	2	温熱環境	2.1	室温制御	3	外皮性能
	3.0	0.50								
	4.3	0.42	LR1	エネルギー	1	建物の熱負荷抑制				
小計	3.5	0.30								
1.2　自然エネルギーの利用										
（コメント）　※配慮事項を簡潔に記載してください 自然エネルギーの利用は特にない。	2.5	0.50	LR1	エネルギー	2	自然ｴﾈﾙｷﾞｰ利用	2.1	自然ｴﾈﾙｷﾞｰの直接利用		
	3.0	0.50	LR1	エネルギー	2	自然ｴﾈﾙｷﾞｰ利用	2.2	自然ｴﾈﾙｷﾞｰの変換利用		
小計	2.8	0.10								
1.3　設備システムの高効率化										
（コメント）　※配慮事項を簡潔に記載してください。□ 住宅部分は潜熱回収型ガス給湯器を採用し高効率化に配慮している。	4.8	1.00	LR1	エネルギー	3	設備システムの高効率化				
小計	4.8	0.17								
1.4　設備システムの効率的運用										
（コメント）　※配慮事項を簡潔に記載してください 建物で消費されるエネルギー量を年間に渡って把握できる。	3.0	0.50	LR1	エネルギー	4	効率的運用	4.1	モニタリング		
	3.0	0.50	LR1	エネルギー	4	効率的運用	4.2	運用管理体制		
小計	3.0	0.05								
1.5　資源・マテリアル対策										
（コメント）　※配慮事項を簡潔に記載してください。□ 節水型水栓や節水型便器を使用し、節水に配慮している。主要構造部に高強度の構造材料を使用し、使用材料の削減に配慮している。躯体材料には高炉セメントB種を使用し、非構造材料としてエコマーク商品やグリーン購入法適合品を使用し、リサイクル材の使用に配慮している。	3.0	0.08	LR2	資源・マテリアル	1	水資源保護	1.1	節水		
	3.0	0.10	LR2	資源・マテリアル	1	水資源保護	1.2	雨水利用・雑排水再利用	1	雨水利用システム導入の有無
	3.0	0.02	LR2	資源・マテリアル	1	水資源保護	1.2	雨水利用・雑排水再利用	2	雑排水再利システム導入の有無
	3.0	0.06	LR2	資源・マテリアル	2	非再生性資源の使用量削減	2.1	材料使用量の削減		
	3.0	0.19	LR2	資源・マテリアル	2	非再生性資源の使用量削減	2.2	既存建築躯体等の継続使用		
	4.0	0.16	LR2	資源・マテリアル	2	非再生性資源の使用量削減	2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用		
	5.0	0.16	LR2	資源・マテリアル	2	非再生性資源の使用量削減	2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用		
	3.0	0.04	LR2	資源・マテリアル	2	非再生性資源の使用量削減	2.5	持続可能な森林から産出された木材		
	4.0	0.19	LR2	資源・マテリアル	2	非再生性資源の使用量削減	2.6	部材の再利用可能性向上への取組み		
小計	3.7	0.26								
1.6　ライフサイクルCO2排出率										
（コメント）　※配慮事項を簡潔に記載してください ライフサイクルCO2排出率を82%とし、地球温暖化に配慮している。	4.4	1.00	LR3	敷地外環境	1	地球温暖化への配慮				
小計	4.4	0.11								
1.「地球温暖化対策」の推進の評価	3.8	0.73								
■2.「ヒートアイランド対策」の推進										
2.1　温熱環境の向上										
（コメント）　※配慮事項を簡潔に記載してください。 外構には中高木を積極的に植樹し、温熱環境の向上に配慮している。また、緑地周辺には散水栓を適切に設け、緑地の適切な維持管理にも配慮している。	3.0	0.50	Q3	室外環境（敷地内）	1	生物環境の保全と創出				
	3.0	0.25	Q3	室外環境（敷地内）	3	地域性・アメニティへの配慮	3.2	敷地内温熱環境の向上		
	4.0	0.26	LR3	敷地外環境	2	地域環境への配慮	2.2	温熱環境悪化の改善		
小計	3.3	0.97								
2.2　交通負荷抑制										
（コメント）　※配慮事項を簡潔に記載してください。 条例による駐車場および駐輪場の附置義務台数を満たす計画とし、敷地内への駐車場出入口を対面通行可能な計画とするなど、適切な駐車スペースの確保や、地域の交通渋滞への	5.0	1.00	LR3	敷地外環境	2	地域環境への配慮	2.3	地域インフラへの負荷抑制	3	交通負荷抑制
小計	5.0	0.03								
2.「ﾋｰﾄｱｲﾗﾝﾄﾞ対策」の推進の評価	3.3	0.16								
■3.「長寿命化対策」の推進										
3.1　耐用性の向上										
（コメント）　※配慮事項を簡潔に記載してください。 主要な空調・給排水管には耐用年数の長い配管を選定し、耐用性に配慮している。	3.0	0.47	Q2	サービス性能	2	耐用性・信頼性	2.1	部品・部材の耐用年数	1	耐震性
	3.0	0.12	Q2	サービス性能	2	耐用性・信頼性	2.1	部品・部材の耐用年数	2	免進・制振性能
	3.0	0.09	Q2	サービス性能	2	耐用性・信頼性	2.2	部品・部材の耐用年数	1	躯体材料の耐用年数
	2.0	0.09	Q2	サービス性能	2	耐用性・信頼性	2.2	部品・部材の耐用年数	2	外壁仕上げ材の補修必要間隔
	3.0	0.04	Q2	サービス性能	2	耐用性・信頼性	2.2	部品・部材の耐用年数	3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔
	3.0	0.03	Q2	サービス性能	2	耐用性・信頼性	2.2	部品・部材の耐用年数	4	空調換気ダクトの更新必要間隔
	5.0	0.06	Q2	サービス性能	2	耐用性・信頼性	2.2	部品・部材の耐用年数	5	空調・給排水配管の更新必要間隔
	2.0	0.09	Q2	サービス性能	2	耐用性・信頼性	2.2	部品・部材の耐用年数	6	主要設備機器の更新必要間隔
小計	2.9	0.56								
3.2　設備の更新性										
（コメント）　※設計の計画上特段に配慮した事項を記載してください。 配管配線は躯体への打ち込みはせず、主に縦管はPS、EPS内配管とし、横引管は天井内配管とする事で更新時に構造材を傷めずに更新可能である。	3.0	0.17	Q2	サービス性能	3	対応性・更新性	3.3	設備の更新性	1	空調配管の更新性
	3.0	0.17	Q2	サービス性能	3	対応性・更新性	3.3	設備の更新性	2	給水配管の更新性
	3.0	0.11	Q2	サービス性能	3	対応性・更新性	3.3	設備の更新性	3	電気配線の更新性
	3.0	0.11	Q2	サービス性能	3	対応性・更新性	3.3	設備の更新性	4	通信配線の更新性
	3.0	0.22	Q2	サービス性能	3	対応性・更新性	3.3	設備の更新性	5	設備機器の更新性
	3.0	0.22	Q2	サービス性能	3	対応性・更新性	3.3	設備の更新性	6	バックアップスペース
小計	3.0	0.44								
3.「長寿命化対策」の推進の平均点（上記2項目）	3.0	0.11								
■重点項目の総平均（上記3項目）	3.6									